

# 避難所に癒やし演歌

## 宮城でAMDAチーム橋渡し



涙をこらえながら被災者の話を聞く北山たけしさん  
(8日、宮城県南三陸町立志津川小で)＝アムタ提供

東日本大震災の避難所に被災者を元気づける演歌が響いた――。岡山市の国際医療NGO「AMDA(アムタ)」(菅波茂代表)が宮城県南三陸町の避難所・町立志津川小学校で行っている救援活動に参加し、倉敷市に帰った内科開業医、仙田尚人さん(59)が現地の様子を語った。仙田さんらのアムタ医療チーム(14人)は、長い避難生活で疲れている高齢者らの実態に「今こそ癒やしに人気歌手の歌が必要」と、音楽事務所らに応援を呼びかけ。北島三郎さんの北島音楽事務所が即座に応じ、8日に演歌の北山たけしさん(37)の「避難所ステーション」が実現した。「歌の処方箋」と銘打った北山さんの熱唱に被災者は感激し、「前を向いて歩く勇気がわいた」と、喜んだという。(木曾田学)

## 倉敷の医師 仙田さん語る 北山さん熱唱「勇気わいた」

仙田さんは、阪神・淡路大震災時にも神戸市で医療活動を経験。今回も現地に行くことを決意してアムタに加わり、1～9日に同校(避難者約300人)で、各地から集まった医師7人、看護師らとともに医療にあたった。

被災者は水や電気のない生活が20日以上も続き、疲労は限界に達しつつあった。風邪などに加え、4月

初めからノロウイルスによる胃腸炎の患者も出始めた。高齢者は「普段の暮らしに戻りたい」「テレビで歌を聴いた生活が懐かしい」など声が多く、6日夜のミーティングで医療チームはプロ歌手の招聘を決めた。

仙田さんは7日朝、福島県南相馬市で救援活動をしていた顔見知りのアムタグ

ループ副代表で、新見市の公設国際貢献献体大学校校管管理・的野秀利さん(43)に「歌の処方箋」の考えを伝えた。的野さんは賛成し、アムタ本部に「アムタ」名で北島音楽事務所へ依頼するよう指示。メールを受けた同事務所は快諾し、北山さんのスケジュールを調整、すぐに南三陸町に送り出したという。

北山さんは北島さんの娘婿で、演歌界のホープ。「希望の詩」など明るいヒット曲も多い。8日午後、ブルーの「アムタ」のスタッフジャケットを着て避難所の体育館に姿を見せた。被災者は、北山さんに気が付くと歓声を上げ、拍手で出迎えた。

北山さんは、被災者のそばで拳を握りしめて熱唱。

高齢者の一人は、「チカがとう。元気が出た」と仙田さんに感謝。的野さんは「当初は歌どころではなかったと思うが、今は、療とともに心の癒やしも必要」と話している。

仙田さんは「アムタの音楽事務所など多くの素人対応がうれしい。今は、イルス感染も収まりつつあるので、いったん帰りが、機会を見て再び現地向き、被災者をもっと元気づけたい」と言っている。